

模擬授業の相互評価における大学生の週ごとのコメントの変化

Change of University Students Comments of Every Week in the Peer Assessment of Micro Teaching

石川 貴彦^{*1}

Takahiko ISHIKAWA^{*1}

^{*1} 名寄市立大学保健福祉学部

^{*1} Faculty of Health and Welfare Science, Nayoro City University

Email: ishikawata@nayoro.ac.jp

あらまし: 相互評価は学習者間の同僚性を高める上で効果があるが、それには評価者のコメントの質が保証されることが条件であり、質向上の方法が課題となっている。このことについて本研究では、教職課程で毎週実施する模擬授業の相互評価を例に、その中で記述された学生のコメントを授業直後に全員に公開し、さらに担当教員のアドバイスを提示することで、その後のコメントの内容が週単位でどのように変化したのかを調べた。そして、この変化を元に質向上が図れたかどうかを検討した。

キーワード: 相互評価, コメント, 模擬授業, 質向上, 大学生

1. はじめに

e-Learning が発展し学習情報のフィードバックが迅速になったことで、近年では相互評価やピアレビューで記述されたコメントを介して、内省促進や同僚性の向上などに寄与する学習システムの開発や、授業実践が多く見受けられるようになった。しかしながら、相互評価において問題となるのは、評価者毎にコメントの内容が不均質であるために、有用な意見が必ずしも提示されないことが挙げられる。したがって、効果的な相互評価を実施するには、迅速なフィードバックの方法の他に、評価者の質向上の方法も議論しなければならない。

そこで本研究では、教職課程の毎週の講義において実施する模擬授業の相互評価を例として、受講者全員に対してコメントの即時公開と、担当教員からのアドバイスの提示を経て、次の受講者のコメントがどのように変化したのかを週単位で調査した。そして、週ごとのコメントの変化をもとに、この手立てで質向上が図れたかどうかを検討した。

2. 模擬授業の相互評価

筆者が担当する教職科目（平成 26 年度後期）において、大学 2 年生 35 名を対象に、模擬授業の相互評価を 5 回に渡って実施した。1 人が教師役となって、スライド教材を用いた 5 分間のマイクロティーチングを行い、他は生徒役として、授業直後に 100 字程度のコメント（匿名・必須）を LMS に入力する。

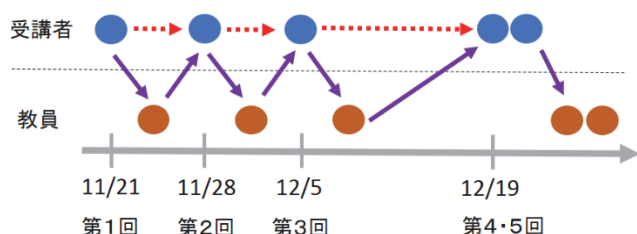


図 1 教員のアドバイスと学生のコメントの流れ

コメントは毎週の講義終了時に全員に公開し、担当教員（筆者）は、次の講義までにアドバイス（字数制限なし）を記入し随時公開した。つまり図 1 のように、担当教員は第 1 回の受講者のコメントを踏まえて、アドバイスを記入・公開して第 2 回を迎えるので、受講者は第 2 回時には、第 1 回分のコメント（点線部）と教員のアドバイス（実線部）を参考にして、第 2 回のコメントを考えることができる。これを第 3 回、第 4 回と繰り返すことによって、コメントの質向上を図るという方法である。相互評価においては、授業の進行や教師の振る舞いについて、単に良し悪しを評価するのではなく、各評価者が具体的な観点を持ってコメントを記述することが、質向上であると捉えている。なお、休講を挟んだため第 4・5 回は変則的な開講形態になった。

3. 週ごとのコメントの変化

3.1 受講者の頻出語の変化

コメントの変化を検討するための手段として、KH Coder⁽¹⁾を用いて形態素解析を行い、コメントのキーワードと見立てて抽出した名詞の頻出語上位を週ごとに求めた（表 1）。表下部の平均とは、1 コメントに含まれるキーワードの平均個数を意味する。受講者の頻出語は、上位 5 語が各回で共通しており、回を重ねるにつれ新たな名詞が出現するといった明確な変化は見られなかった。ただし、第 1 回

表 1 週ごとの受講者コメントの頻出語上位 5 語

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1位	スライド	説明	授業	説明	生徒
2位	説明	授業	説明	授業	授業
3位	生徒	スライド	生徒	スライド	声
4位	授業	声	声	生徒	説明
5位	声	生徒	スライド	声	スライド
平均	4.5	4.4	5.6	4.5	5.0

表 2 受講者の各回の平均コメント字数

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回
授業 1	44.2	59.4	69.6	64.3	73.8
授業 2	51.2	51.2	74.8	58.6	61.1
授業 3	39.0	38.7	36.1	48.7	54.2
授業 4	56.8	57.6	67.8	42.0	53.6
授業 5	53.1	53.4	71.8	52.2	40.7
全体平均	48.8	52.0	64.1	53.2	57.1
SD	17.2	17.8	26.4	15.6	19.8

の 1 位である「スライド」は、第 3 回までにかけて順位が下がり、平均キーワード数は第 3 回がもっとも多かった。しかし第 4 回では、スライドの順位が再び上がり、平均キーワード数は減った。

3.2 受講者のコメント字数の変化

次に、受講者の各回における平均コメント字数(表 2)を求め、回を重ねるに連れ、詳細に記述した様子を質向上として捉えようと試みた。表中の「授業 1」とは、第 1 回に授業を担当した受講者群を表し、以下、「授業 2」は第 2 回の授業者を意味する。全体の平均字数は、第 1 回から第 3 回にかけて増加したが第 4 回で減少した。また、表の網掛けは、受講者が授業を担当した回のときの字数を示しており、どの回も自分が当日授業するという緊張からか、他の者よりも詳細に記述する余裕がなかったと推測される。

3.3 教師のアドバイスの頻出語との比較

教師のアドバイスについても形態素解析を行い、受講者の頻出語との比較を試みた(表 3)。教師の頻出語は「生徒」が各回で上位となり、受講者が各回で用いた「スライド」や「声」の代わりに、「確認」や「導入」といった語が現れた。受講者は授業や説明を行うにあたって、自身の中で気をつけるべき箇所を注視したのに対し、教師は一貫して生徒への配慮を第一に注視している点で違いがあり、筆者がかつて明らかにした、模擬授業時の評価コメントの傾向²⁾と同様の特徴を示している。

3.4 考察

受講者の評価コメントは、第 1 回では「スライド」と「説明」をキーワードに含めたものが多く、受講者は、授業実践を生徒向けの発表として捉えたと思われる。また、文章も適不適(声が大きい・小さいなど)を散文的に記述しがちで、平均字数も第 1 回

が最も短かった。その後、第 1 回コメントの全員への公開と、教師のアドバイスを提示したことによって、第 2 回では「スライド」の引用が減り、平均字数が増加した。これは、受講者が発表から授業へと見方がしだいに変化し、より具体的に評価する意識が高まったと推察できる。第 3 回では、さらに「スライド」が減って教師の頻出語に近づき、平均キーワード数、平均字数ともに最も多くなった。このように、全員に対し評価コメントと教師のアドバイスの公開を何度か繰り返し行うことで、受講者の授業の捉え方が徐々に変容し、「わかりやすく説明することから」、「生徒に配慮した指導を行う」ことに意識を向けることができていった。

ところが、第 4 回では「スライド」を用いる割合が増え、平均キーワード数と平均字数が減少した。休講によって 2 週間のブランクが生じ、その間に評価の感覚がぶれた結果、第 2 回と同じ状態に戻ったと予想される。それから何名か評価していくうちに勘を取り戻し、当日午後の相互評価(第 5 回)では、「生徒」をキーワードに含める割合が最も高くなり、平均キーワード数、平均字数ともに増加した。

4. まとめ

本研究では、模擬授業の相互評価において、受講者のコメントの即時公開と、教師のアドバイスの提示を経て、次回の受講者のコメントがどのように変化したのかを週単位で調査し、この手立てで質向上が図れたかどうかを検討した。

受講者は授業を発表の延長と捉え、その出来・不出来を評価するものとして、第 1 回のコメントに表していたが、手立てを繰り返すことで、授業を対象に配慮した指導と意識するようになり、関連するキーワードを含めた具体的なコメントで記述することができた。この点では、各回の全員への即時公開は、コメントの質向上に関して有効な手段であるといえる。しかしながら、前回の相互評価から 2 週間程度の期間があいて、再び評価を行う場合は、受講者の評価の感覚にぶれが生じ、元の評価の視点に戻る傾向にあった。ただし、評価を何名か行うことで勘を取り戻し、再び詳細なコメントを記述できるようになる。したがって、第 1 回の授業者や、期間があいた直後の授業者は、コメントの質を向上させるための犠牲になってしまう可能性が高い。そのような不利益をなくし、質の高いコメントを均一に記述するためには、例えば過去の授業者のビデオを用いたプレ評価を実施したり、相互評価の実施時期に対する適切な時間間隔を考慮したりするなど、今後の課題として取り組まなければならない。

参考文献

- (1) KH Coder: <http://khc.sourceforge.net/>
- (2) 石川貴彦, “マイクロティーチングにおける受講者と SA の評価コメントの比較”, 日本教育工学会論文誌, Vol.36, Suppl, pp.197-200, (2012)

表 3 週ごとの教師のアドバイスの頻出語上位 5 語

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回
1 位	生徒	生徒	授業	生徒	説明
2 位	説明	説明	生徒	説明	生徒
3 位	最初	授業	内容	授業	授業
4 位	提示	確認	確認	教師	確認
5 位	導入他	目標	説明	政治	導入他